



テアトル9ニュース

お芝居大好き！九条の会
2016年7月2日 第71号

参議院選挙が6月22日告示されました。この日「**安保法制と安倍政権の暴走を許さない演劇人・舞台表現者の会**」が緊急サイレントスタンディングを、東京・信濃町駅前で行いました。戦後初めての野党共闘を市民の声で実現、選挙権が18歳に引き下げられた初めての選挙、戦後71年、一度も戦争をしてこなかった日本の将来を決める選挙です！



みんなで選挙！！

今年2月、出会うはずのなかった人たちが出会いました。

憲法の平和主義と、一人一人のささやかな毎日が大切にされる社会をつくってきたい。世代を超え、さまざまな立場や考え方の違いを超えて、「希望はここに！つなぐ野党！みんなで選挙！」を合言葉に、市民と野党の共闘をめざす『連帯兵庫みなせん』がスタートしました。

兵庫県は、複数区というとても難しい選挙区ですが、県内野党5党と市民が同じテーブルにつき「どんな協力ができる？」と何度も協議を重ね、街頭共同アピールを実現させました。各地域のみなせんが次々と立ち上がり、それぞれの地元でお祭りのような期待感あふれる選挙前の空気を演出してきました。

社会をつくるのは、政治家ではなく私たちです。

これまでになかった市民主体の選挙活動はこれからもっともっと広がっていくでしょう。安倍政権への**NO**を未来に希望をもてる**YES**に変えて、選挙結果、議席数につなげていきたいです。（ママの会・みなせん代表世話人 N・H）



沖縄県議選選挙の応援に（3泊4日）行ってきました！

沖縄県議選の直前に米軍属（元海兵隊員）による女性遺体遺棄事件があった沖縄でも、その投票率**53.31%**で、前回よりもわずかしら伸びていなくて、私にはやや期待はずれでした。これが日本の沖縄の現実なのでしょうか。確かに翁長知事与党は過半数を超えましたが、6月19日の抗議集会への取り組みも含めて若者たちにどう伝えたら響くのか？？みんなで考えたいと思いました。

Eテレで特集していた佐喜眞美術館の内容が素晴らしかったのでその紹介をしたいと思います。

「米軍基地とむきあう美術館」普天間基地にくいこんでいるように佐喜眞美術館があります、6月23日沖縄慰霊の日や平和学習・修学旅行で年間4万人以上の方が訪れるそうです。屋上の展望台は6月23日の日没の方向にあわせ、階段6段と23段その向こうに普天間基地の滑走路がみえます。

館長の佐喜眞道夫さんは、先祖の土地が強制接収され米軍基地となり、その地代で特に沖縄にこだわった美術品のコレクションをしていました。ケーテ・コルヴィッツの代表作『母たち』はお母さんがスクラムを組んで腕の下の子どもたちを守る姿を描いています。第1次世界大戦でドイツが熱狂的な愛国主義に染まる中、コルヴィッツの息子が志願し戦死しました。息子を止められなかったことが生涯の悔いとして戦争をテーマにした母の思いを作品に描いています。

1972年沖縄返還後地代が本土基準になったことで地主と島ぐるみ闘争との分断策と不愉快な気持ちで生活費にいたらないと思い、いまなお翻弄され続けている沖縄の心を静かに「もの想う場」をつくりたいと先祖の土地の一部を取り戻し、1994年美術館を開館しました。いろいろなアートの力を借りて、「戦争の悲惨さ」「平和の大切さ」を伝えることができたと思います。

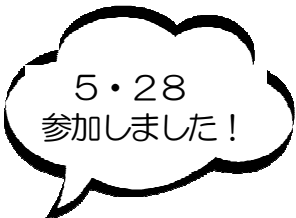
いつか6月23日にあわせてもう一度佐喜眞美術館に行ってみたいと思っています。（西神ニュータウン九条の会 N）

ケーテ・コルヴィッツの晩年の言葉

（1945年4月77歳で亡くなりました）

いつか1つの新しい理想がうまれる
あらゆる戦争の終わりをつげる
この確信を抱いて私は死ぬのです
そのために人はつらい努力をしなければいけません
がいつかなしとげられるでしょう
平和主義を単なる反戦と考えてはなりません
人類を同胞としてみる思想なのです

5月28日14時から兵庫県弁護士連合会主催『憲法違反の「安保法制」&「特定秘密保護法」廃止 兵庫大集会・パレード』が東遊園地で開かれました。一時間余りの濃密な内容の全てをお伝えできませんが内容を摘記します。伊藤真氏は、前日のオバマ大統領のヒロシマ・スピーチを紹介しながら言う。武力による問題「解決」が次の新たなより深刻な問題を生む。日本国憲法は相互信頼に基づき70年間、殺しもせず、殺されもせずきた。氏は2015年11月弁護士有志と共に「安保法制違憲訴訟の会」を立ち上げた。リレートークでは、新聞労連・神戸新聞・デイリースポーツ労組委員長荒川克明氏の報告。国境なき記者団の活動や総務大臣の電波停止発言。国連のメディアと権力の関係調査で日本の報道の自由が著しく低下している事実を指摘。東日本大震災以後、当局発表が多くなり、現場の記者は、情報源をどう守るか、に苦勞している。元気いっぱい明日若弁護士会の憲法カフェ報告と開催の呼びかけ等々。伊藤氏が講演の冒頭に「暗雲の向こうに青空が・・・」のとおり雨が降り続く悪天候のなか主催者発表4,000人。遠く奈良女子大学自治会からものぼり旗を掲げて参加。集会終了後3コースに分かれて、元町駅、大丸前まで、シュプレヒコールしながらパレード。(関心のある方へ。全容は、インターネットで公開されています。)(なんじゃもんじゃサークル・上原良蔵)



俳優座、文化座公演の「反応工程」を観て・・・

5月に紀伊国屋ホールで俳優座「反応工程」を観ました。終戦直前、九州の軍需工場を舞台に、ベテラン工員や勤労学徒、思想を持つ者、徴兵拒否する者、憲兵にいたるまで様々な立場の人々が描かれていました。

印象に残ったのは芝居の終盤、戦争が負けると分かっているながらロケット砲の発射薬を作り続ける工員が「こっちは、この工場よりか外には行くところのなか人間たい。機械 動かすとらんば 飯の食われん人間たい・・・わたしたちや、どぎゃん腹の立っても、だまされても、戦争はすかんでも、機械ば、とめるわけにはいかんたい」と、語る場面。生活のため、生きるため、その通りだと感じたし、同じ時代に、同じ立場なら自分もきっとそう言うのかなと思いました。でも、それを理由にみんなが本当に思っていることを諦めてしまうなら、世の中はそのままだし、生活の糧を押さえてしまうのが、そもそも権力側のやり方ではないのかとやりきれないものも残りました。

みんなに守るべき生活はあり、その中で声を上げた人は生活の他に何を守ろうとしていたのか。誰が正しい悪いではなく、だれにとっても自由な世の中のために、力のない立場の人ができることは何かを考えさせられる芝居でした。(水無月 平山)

戦前、戦後を生きたひとたち

5月20日。文化座のアトリエ公演、宮本研の初期の作品「反応工程」を観た。演技が終わる。照明が消える。そして、出演者たちが再び照明の中に。舞台が終わった後の余韻が残る出演者たちは、観客の反応がどうだったのか、不安げに見えた。

そんな心配は不要と言葉をなげかけたい思いがわいてきた。それ程に登場人物ひとり、ひとりの演技は素晴らしかった。

敗戦直前の化学軍需工場の中で、学徒動員された生徒たち。疑問や悩みを持ちながら働く。それを、工場のベテラン工員たちが温かく接する。召集を忌避し、母親を自殺に追いやった学徒のやりきれない苦悩。胸が痛んだ。空襲警報。防空壕に入りそびれ、爆死する女生徒。戦時下の人間の生き方が山ほど描き出される。

やがて敗戦。がらり変わって民主主義。組合活動が盛り上がっている。

舞台の短い時間の中で、戦前、戦後を生きた人たちを比べている。悩み、悩んだ戦前。それを破った戦後。悩みは消えただろうか。不安になった舞台でした。

(エバレット・小谷博子)



例会場「テアトル9コーナー」にお立ち寄りください!

テアトル9グッズ、また賛同者の方にはニュースをご用意しています。

カンパも大歓迎!

お芝居大好き!九条の会~テアトル9 って何??

2004年、井上ひさし、大江健三郎等9名の著名人が日本国憲法九条を守る「九条の会」を結成。その呼びかけに応え、演劇鑑賞会の会員有志で2005年「お芝居大好き!九条の会~テアトル9」を作りました。

月1回世話人会を持ち、ニュースを発行しています。興味のある方は、一緒にしませんか?下記世話人までご連絡を

児玉 090-8209-2391 米田 090-8658-8579

谷中 090-2101-4579 田中 090-8493-3378